



Vol. 30 No. 1,
2013. July



秋田県作業療法士会

発行 一般社団法人 秋田県作業療法士会 ホームページ <http://akita-ot.jp>
会長 高橋 敏弘
編集 一般社団法人 秋田県作業療法士会広報部
〒018-5421 秋田県鹿角市十和田大湯字湯ノ岱 16-2
大湯リハビリ温泉病院 作業療法室・水原 寛
TEL 0186-37-3511 FAX 0186-37-3483 E-mail a-ot-kouhou@par.odn.ne.jp
事務局 〒010-0041 秋田県秋田市広面字屋敷田 25-2 セジュールエスト 105号
TEL/FAX 018-837-0552 E-mail has80970@snow.odn.ne.jp
印刷 川嶋印刷株式会社

巻頭言 秋田で全国研修会を開催します。 会員の皆様ご協力をお願いします。

会長 高橋 敏弘

平成 25 年 9 月 7 日、8 日に第 5 2 回作業療法全国研修会が秋田市文化会館で開催されます。

全国研修会は東日本と西日本で 2 回開催することになっており、今年度は秋田県と愛媛県（10 月 26 日、27 日）が担当となりました。昨年秋から実行委員会を組織し、日本作業療法士協会の担当者との連絡を取りながら準備を進めています。秋田で全国規模の学会・研修会を開催するのは 1994 年の第 28 回日本作業療法学会以来 2 回目で、実に 19 年ぶりとなります。昨年の全国研修会は岩手県で開催され、532 名の参加者がありました。東北を元気づける意味も含まれている研修会なので、秋田県士会が一丸となってこの研修会を成功させたいと思います。

全国研修会のテーマは「作業は人を健康にする～心身を支える技術」と、昨年までの「作業は人を元気にする」から変わりました。公開講座は秋田大学工学資源学部情報工学科教授 水戸部一孝先生に「高齢者が地域で安全に暮らすために～移動環境における留意点～」と題し、「歩行環境シミュレーターわたりジョーズ君」を用いた研究の成果についてお話しただくと共にシミュレーターの実演も予定されています。（水戸部先生の歩行環境シミュレーターは 2013 年 1 月 20 日に TBS 夢の扉+で放映されました。）他にも、厚生労働省による官公庁講演や作業療法に関する様々な領域の研修が企画されています。

研修会当日は 50 名程度の運営委員が必要となります。実行委員を通して主に秋田市内の会員にお願いすることになると思いますが、声がかかりましたらご協力をお願いいたします。

今後、大阪の全国学会や協会、県士会のホームページ等で全国研修会の広報を行っていきます。研修会の 5 月 31 日時点のプログラムを掲載します。（当日まで若干変更があると思いますので、今後の新しい情報を HP 等でご確認ください）

研修会成功のために、開催地である秋田から一人でも多く参加してもらいたいと思います。会員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

	大ホール	小ホール	大ホール ホワイエ	
1 日 目	9:45~	開会式		
	10:00~11:20	講演:国が求める作業療法の社会的役割 講師:官公庁関連(厚生労働省など)	W F O T ・ J I C A 企 画 国 際 部 担 当	
	11:30~12:30	講演:作業は人を健康にするーこれからの協会のあり方ー 講師:中村春基(日本作業療法士協会会長)		
	12:30~	昼休み(国際部の企画によるランチョンセミナー)		
	13:20~14:20	講演:介護予防事業における作業療法士の役割ー健康増進のための支援ー 講師:安本勝博(岡山県津山市役所健康増進課)		講演:上肢切断者の作業療法 講師:柴田八衣子(兵庫県立リハビリテーション中央病院)
	14:30~15:30	講演:身体障害者の地域移行を促進する作業療法士のあり方 講師:太田睦美(竹田総合病院)		講演:精神障害者の地域移行を促進する作業療法士のあり方 講師:遠藤真史(地域生活支援センターゆずり葉)
	15:40~16:40	講演:脊髄損傷による四肢麻痺へのアプローチー再生医療に向けた障害理解と具体的支援ー 講師:松本琢磨(神奈川県総合リハビリテーションセンター)		講演:社会生活におけるメンタルヘルス対策ー作業療法士が担う役割ー 講師:稲富宏之(大阪府立大学)
	16:50~18:20	講演:高齢者が地域で安全に暮らすためにー移動環境における留意点ー 講師:水戸部一孝(秋田大学)		
19:00~	懇親会			
2 日 目	9:00~10:30	講演:作業で健康になるリハビリテーションー生活行為向上マネジメントー 講師:大庭潤平(神戸学院大学)		
	10:40~11:40	講演:認知症患者の生活に必要なコミュニケーション支援 講師:小川敬之(九州保健福祉大学)	講演:がんの作業療法 講師:田尻寿子(静岡県立静岡がんセンター)	
	11:40~	昼休み(国際部の企画によるランチョンセミナー)		
	12:30~13:30	講演:重度障害者の生活に対応した福祉用具の選定 講師:桑田哲人(横浜市総合リハビリテーションセンター)	講演:目と手の協調性に関する認知運動制御と作業療法ー発達学的観点を含めてー 講師:酒井浩(名古屋大学)	
	13:40~14:40	講演:介護老人保健施設における作業療法士の役割 講師:新井健五(介護老人保健施設ミドルホーム富岡)	講演:精神疾患患者に対する身体機能へのアプローチ 講師:苅山和生(佛教学)	
	14:45~	閉会式		

学会記 第22回秋田県作業療法学会を終えて

秋田大学医学部保健学科 金城正治

4月20日(土)に第22回秋田県作業療法学会を秋田しらかみ看護学院(能代市)で開催し、無事に終了することができました。学会に参加していただきました方、県士会員の皆様のご協力があったの事だと思っております。また、少人数で学会を運営して頂いた実行委員の皆様にも感謝申し上げます。

今回の学会は土曜日の一泊開催でした。例年は二日にわたって開催されていますが、これまでの学会プログラムを見ると、一日でやれる内容であること、また、昨今のワークライフバランスも考えて、一日開催にしました。これにより参加者の減少も考えられました(実際、実行員会ではどのくらい集まるのか不安でした…)が、参加者は例年よりも増えて、182名の参加がありました。これは県士会の作業療法士の増加もありますが、皆様の自己のキャリアアップ、専門職種として意識の高さだと思っております。また、演題登録や参加受付は、ホームページなどを利用して、IT機能を活用していきました。これに関しては秋田労災病院の田村先生にお世話になりました。感謝しております。

そして、今回の学会内容はシンプルで研究成果の発表を中心としました。演題も15題の応募があり、座長の配慮ある進行により有意義な討議が行われました。発表分野も多岐にわたり、作業療法の活動の広がりがうかがわれました。また、今回から事前にパワーポイントの資料を提出して頂き、内容の理解を

深められるようにしました。

特別講演としては、「作業療法士のメンタルヘルス」というテーマで、秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻理学療法講座の上村先生に講演をいただきました。自己自身のメンタルヘルス、対患者間での関係、職場での関係、地域家庭での関係など、我々は多くの関わりをもちながら暮らし、仕事をしています。その中でバランスをとることは、作業療法士にとっても大事だと思い、講演を依頼しました。講演は上村先生によるアイスブレイキングに始まり、臨床心理士でもある先生の話術にすいこまれ、自己のメンタルヘルスの重要さを知ることができました。この講演内容は秋田県の作業療法誌でも読めるように、先生に執筆を依頼しました。学会終了後の懇親会、新人歓迎会も盛り上がり 4 時頃まで交流がありました。人と人とのつながりはとても大切であり、そこにはコミュニケーションが重要です。自己のメンタルヘルスとともに、懇親会は学会のもう一つの重要な役割だと思います。

最後に学会を成功させるのは、参加者一人一人の意識だと思います。学会は終了しましたが、これからも皆様の学びを応援していきたいと思っています。



書評

「心を整える。勝利をたぐり寄せるための56の習慣」

著者：長谷部 誠 出版：株式会社 幻冬舎
233 項 価格：1300 円

介護老人保健施設 照隅苑 池部 弥生

この本は、サッカー日本代表キャプテンの長谷部誠選手が書いたものです。タイトルにもありますが、56 の項目ごとに書かれており、気になる項目だけをチョイスして読むことができるので、少しずつ読むときや、時間がなくてもちょっぴりとした空き時間で読むのに適した構成となっています。

本の内容は、「心を整えるにはこうするべきだ。」というような文章は書かれていません。長谷部選手が普段どのように考え、行動しているのか、どのようなことを習慣としているのかが紹介されています。

私が共感したところの一つが、「整理整頓は心の掃除に通じる。」という項目です。掃除が心をきれいにしてくれるというところです。「ドイツには『整理整頓は、人生の半分である』ということわざがある。日頃から整理整頓を心がけていけば、それが生活や仕事に規律や秩序をもたらす。だから、整理整頓は人生の半分と言えるくらい大切なんだ、という意味だ。」とあります。「試合に負けた次の日などは、何もしたくなくなつて、部屋が散らかってしまうときがある。あの場面であすれば良かったという未練や悔しさが消えず、自分の心の中が散らかってしまっているからかもしれない。そんなときこそ、整理整頓を面倒くさがらなければ、同時に心の中も掃除されて、気分が晴れやかになる。」「ただ、あまり整理に対して気を遣いすぎると精神的に負担になるので、100 点満点で言えば 80 点くらいの清潔感を保つようにしている。きれいになった部屋を見たら、誰だって心が落ち着く。僕は心がモヤモヤしたときこそ、身体を動かして整理整頓をしている。心の掃除もかねて。」と書かれています。

私も掃除したときのスッキリ感は一気持ちが良いし、100点満点で80点というところにホットさせられました。この本を読んでいると、“これでいいんだ。”と思わせてくれることが多く、目から鱗というよりは共感が多いことから、読んでいるだけで“心が整えられる”そんな時間を与えてくれます。心の整え方には、人それぞれ、いろんなパターンがあると思います。忙しい毎日の中に、何か気分が晴れるようなことがあると、少し大変なことでも頑張れるような気がしてきます。

今、世界で活躍する長谷部選手の心とプレーを支えていたのは、掃除だったのかもしれない。

印象記 第22回秋田県作業療法学会を通して

秋田東病院 加賀美 開

私は第22回秋田県作業療法学会において、「上肢機能維持を目的とした『のびのび手袋体操』の開発と提案」「園芸活動を用いた介入により自発性が向上した高齢認知症の1事例」というテーマで2演題発表させて頂きました。正直なところ、2演題も発表することに自分自身も戸惑っていましたし、不安なことばかりでした。しかし実際に発表をしてみて、挑戦して良かったと思っています。多くの方に意見をもらい、情報交換ができる場があるということの重要性を改めて実感しました。

今回の学会で発表しようと思ったのは、自分の行っていることを誰かに聞いてもらいたいと思ったからです。当たり前のことですが、自分の病院のなかでも情報交換は行っています。しかし、在籍する5名のOTとの情報交換であったので、より多くの作業療法士の方々の意見を聞きたいと思いました。自分が日々行っていることは、客観的に見てどうなのかということが非常に気になっていました。自分がいる病院の中だけでは、少々考え方に偏りが出てしまうのではないかとも思っていました。ですから発表後の質問や、その後の休憩時間の交流、懇親会での交流が行えたことで、非常に有意義な時間を過ごさせて頂きました。もちろん演題発表をしていなくても交流は可能であると思いますが、発表をしたことがきっかけで話しかけて頂けたということが多かったです。質問や助言をしてくださった先生方に感謝申し上げます。

また、先生方の発表を聞かせて頂き、日々の積み重ねの重要性を改めて実感しました。私が事例報告を発表しようと思ったときには、恥ずかしながら情報が整理されていないなと思いました。これは自分のだらしなさによるものですが、自分が分かるから大丈夫という意識もありました。しかし、実際に誰かに伝えるという場面になってみて、再び情報を遡っていて効率が悪いと感じました。このことは、せっかく自分が行ったことを、自分の将来のためにつなげることができていないと反省しました。先輩方の発表を聞いていると、順序立てて情報が整理されておりイメージがしやすかったです。対象者の状態を治療開始から順を追って把握するためには、毎日の記録等が整理されていなければならないと思いました。今後の自分の課題にしたいと思います。

演題発表に関しては、自分が発表するにしても先生方の発表を聞くにしても考えさせられること、学ぶことが多く、今後の刺激になりました。

また、特別講演も非常に興味深く、多くのことを考えました。秋田大学の上村先生に「OT・PTのメンタルヘルス」についてお話させて頂きました。私自身、日々の業務の中で対象者の方に負の感情を向けられることは少なくありません。それが、私の作業療法に対する不満から生まれるものなのか、疾患に

より生み出されたものなのかを考え不安になることは多々あります。ただでさえ私は、ネガティブな方なので、いわゆる「病んでる」状態になりやすいです。しかしそんな時に、先輩や同僚に打ち明けられるということが重要なのだと改めて実感しました。今回の講演でお話して頂いたような、メンタルヘルスの保ち方を実践していき、自らの精神状態を良好に保ち、対象者の方との良い信頼関係づくりをしていきたいと思いました。

今回の学会では考えることが非常に多く、書きたいことも多くありました。しかし残念ながら、うまくまとめきれていないようで、稚拙な文章になってしまい申し訳ありません。今後、今回の経験を活かし、研究や発表を行い、少しでも秋田県の作業療法の発展に貢献できるよう努力していきます。

最後になりますが、今回の発表において、快く承諾して下さった症例の方をはじめ、ご指導・ご協力を頂いた先生方に深く感謝申し上げます。今後ともよろしく願いいたします。

印象記 第22回秋田県作業療法学会を通して

大湯リハビリ温泉病院 米田絵美

H25年4月20日に開催された秋田県作業療法学会に参加する機会を頂きました。今回の学会は、私にとって初めての秋田県学会ということで、秋田県内の作業療法の現状を知れるかも！と楽しみで期待する反面、どのような雰囲気で行われるのか、他施設の方達ときちんと交流できるのか、少し緊張した面持ちで参加した印象です。今年の学会は1日のみの開催で、一般演題が15題と例年より多く、特別講演として秋田大学大学院の上村佐知子先生の講演、さらに学会終了後には懇親会と新入会員歓迎会を開いて頂き、とても充実した1日であったと思います。

一般演題に関しては、経験年数の浅い自分にとってどの発表も大変勉強になり、刺激的でありました。特に秋田県立脳血管研究センターの『回復期病棟における家族参加型リハビリテーションの取り組み』についての発表は、セラピストと患者様だけではなく、患者様の家族が実際のリハビリ場面に介入していく必要性を再確認することができました。実際の臨床場面では病院や施設、患者様の家族背景にもよるとは思いますが、家族が来院せず病院に任せきりな状態、家族のニードはあるものの介護には消極的・・・といったケースを見かけることがあります。また、自分自身も患者様と1対1の治療のみ専念してしまい、その方の環境面・社会的背景はどうなのか、評価や情報収集を疎かにしてしまうことがあります。このようなマニュアルが運用されることで家族が早期から一緒にリハビリ場面に介入でき、患者様と共にリハビリを行う、またセラピスト側も常に家族からニードを聞きながら環境面に働きかけ、より良いセラピーを提供できるのではないかと思います。実際にマニュアルが運用されるためには、その病院が地域で担う目的、立地状況や運営にも関わってくるため難しい現状だと思います。しかし患者様には常に家族の存在があるというのはどこの病院や施設でも共通するものであると思いますので、今後の臨床でも家族の存在を意識して患者様に接していきたいと思います。また、介護老人保健施設の作業の意味についての発表も非常に興味深かったです。何かを獲得するための手段としての作業と、その作業自体が目的となることでは、大きく意味が異なるのだと発表を聞いて改めて実感しました。同じ作業を行うにしても、作業療法士の捉え方によりその方の作業に対する意味が変わり、作業に対する効果がさらに発揮されやすくなるという視点は、今後の臨床に役立つと思いますし、実際にそのような視点でセラピーを行ってみたいと思いました。

今回の学会では、秋田県内の病院や施設、そこに勤める作業療法士の方々を知ると同時に、一般演題等今後の臨床場面でのヒントとなる発表が多く自分にとって非常に実りのある1日であったと思います。また今年から秋田県作業療法士協会の会員となり、まだまだ不慣れな点が多いですが、秋田県の作業療法を支えられるよう日々精進していきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。



職場紹介

デイサービスセンターおひさまからこんにちは！

デイサービスセンターおひさま 高橋美央

お久しぶりのペイでございます。(『ペイ』をご存じない方は、県士会ホームページ内『海外での作業療法』を是非ご覧ください!) 2008年中国より帰国し、大館市の介護老人保健施設を経て、現在は旧田代町にありますデイサービスセンターおひさまにて機能訓練指導員をしております。『デイサービスの機能訓練指導員』という仮面をつけると、作業療法士でも医師の指示なく機能訓練ができるという怖さ(?)に似たものを感じながらも、毎日慌ただしく過ごしております。

デイサービスセンターおひさまは昨年4月にオープンしました。通所介護事業と介護予防通所介護事業を合わせて定員15名、リハビリ特化とまでは言えませんがリハビリを重視したデイサービスです。管理者兼生活相談員、看護師、介護員、機能訓練指導員とパート4名(介護員、マッサージ、調理員)の合計8名(all女性!!)という職場です。男性のいないデイサービスはキツイですね。ありますよ…送迎車までおんぶして連れ出さなければならない…車椅子用の送迎車が故障する…スコップを持って行って除雪しないと玄関にたどり着けない…などなど、そんな時は全部任されてしまう嬉しい(悲しい?)役回り。社長には男性代役手当をつけて欲しいとお願いしている次第です。

デイサービスで働くようになって改めて思いました。先にも述べましたが、機能訓練指導員という名の下でリハビリの提供を行っていますが、やはり医師の指示や術後経過、リハビリ経過を知りたいことが多々あります。入院生活から解放され自宅に戻った人は、病院にいる頃には考えなかったようなことをしたくなるようです。そして、いろいろなことが起こります。自宅復帰・社会復帰とは、すなわち病院という異文化から自分本来の文化に戻ることであるからではないでしょうか。何かが起こって当たり前なのです。だからこそこのような時、リハビリの情報が欲しいのです。病院のリハビリ担当者を利用者様からお聞きし、可能な限りお電話で情報収集させていただいたりしておりますが、電話のタイミングもなかなか合わないものです。病院にお勤めの皆さんのお手を煩わせることは十分承知です。地域で働く悩める機能訓練指導員たちのために、情報提供をよろしく願いいたします。

余談ですが…医師に聞いたほうがよいと思われることは、受診時に聞いて来てもらうよう利用者様に

お願いしています。しかし…じいちゃん・ばあちゃん、どうやらお医者さんの前ではいい子でいたいようで「あ～忘れた～」と聞いて来てくれないのがほとんどです…

さて、デイサービスセンターおひさまのリハビリは生活リハビリを基本にしています。機能的訓練が必要と思われる方にはもちろん実施しますが、生活の中でできるリハビリ、生きることに生きるリハビリ、生命を生き活きさせるリハビリを目指しています。毎日のおやつ作りはもちろん、調理員がお休みの時は全員で昼食の用意をしたりもします。入浴用のタオルたたみは職員よりも手早く、食事用のおしぼりたたみは達人レベル、変に手を出すと叱られます。また、職員と同様に朝の出迎えを手伝ってくださる方もいて、職員と勘違いしたケアマネさんもいたほどです。毎日が修学旅行のような賑わいです。

本当に暖かな『おひさま』になったことが、開設から関わった一職員としての喜びです。まだまだ進化し続けるデイサービスセンターおひさま、お近くにお越しの際は是非お立ち寄りくださいませ。いつでもどなたでも見学できます。



編集後記

そろそろ梅雨が終わり、太陽の日差しが強い時期にさしかかろうとしています。新入社員の皆様は、入社してから2ヶ月経ちましたが、どのようにお過ごしでしょうか。

私も今年で3年目に入りました。入社当初は緊張しすぎて心臓が飛び出しそうになったくらいで…(笑) 今では先生方にいじってもらい、時には厳しく指導して頂きながら、日々患者様の治療をしております。後輩ができて教える立場になりましたが、多々理解できていないことを痛感するとともに、逆に教えられる事もあります。共に過ごしている環境のなかで、時にぶつかり、助け合ったりすることもあるれば、多々悩むこともあると思います。色々な考えの人がいるからこそ、今まで想像もしなかった新たな発見もあるかもしれません。一步一步、自分のスタイルを確立していけばいいのかなと思う今日この頃です。

編集担当 (yu-min)

研修会のご案内

成人片麻痺における環境適応講習会 2013 in 秋田

日時 : 2013年10月12日(土)13:00 ~ 14日(月)15:00

会場 : 大湯リハビリ温泉病院(鹿角市)

講師 : 柏木正好(柏塾代表・作業療法士) 高橋栄子(富士温泉病院・作業療法士) ほか

テーマ : Activity

会費 : 12000円

申し込み : ホームページ(<http://www.kanteki.net/>)をご覧ください。

環境適応講習会秋田支部事務局 akita_kanteki@yahoo.co.jp (担当: 神馬)

広報部から

・会員異動の際は、お早めにお知らせください

県士会ニュース「きりたんぼ」では会員の異動情報(新規入会・退会含む)を取り扱っております。正確な情報をお届けできるように、広報部一同、これからも頑張っていきますので、異動の際はお早めにお知らせください。連絡先は事務局メールアドレス has80970@snw.odn.ne.jp です。ご協力よろしくお願ひ致します。

・研修会情報をお知らせしております。

余白を有効活用して、県内で開催される講習会・研修会情報を公開しております。院内での小さな勉強会でも構いません。「他の病院から参加者を募り、実りある研修にしたい」「情報交換をしてお互いの技術や知識を高めたい」その想いが秋田の作業療法を發展させます。みんなで秋田を盛り上げていきましょう。情報お待ちしております。宛先はこちら a-ot-kouhou@par.odn.ne.jp

創業120周年の福祉機器と
リハビリテーション機器の総合メーカー

酒井医療株式会社

仙台営業所

〒984-0032 宮城県仙台市宮若林区荒井字遠藤 47-1
TEL 022-390-6840 FAX 022-390-6842